

木田市長の

どしんと



コミュニケーション

天候にも恵まれた

あまちゃんイベント

Vol.94

一年のうちで何度かは、どうしても晴れて欲しいと願う日があります。今年で言えば、吉永小百合さんが神島へ来てくれた日、恒例のみなとまつりの花火の日、そして10月14日の六本木ヒルズのイベントの日などが特に晴れて欲しいと願った日でありました。海女姿100人の鳥羽の女性が六本木ヒルズへ乗り込んだ日も、あと一日か二日ずれていれば台風26号の影響を受けていたところでした。ラッキーだったと思います。

千匹の伊勢えびを干して、100人の海女姿の女性が東京へもってゆくというアイデアは、三世代海女の協力もあって、予想以上のインパクトがあったように思います。同

時に行われた真珠婚式では、大和田獏・岡江久美子ご夫妻もご参加いただき、このイベントを盛り上げてくださいました。当日の様子は、テレビ・新聞そしてインターネット関係など、170以上の露出があったそうです。東京における広告宣伝にはかなりの費用がかかりました。今回のように自主的に取材に来ていただいているのは大変ありがたいことです。

イベント当日、10000人の伊勢えびの干ものをはじめ伊勢えび汁、あわび、鯛など鳥羽市が誇る食材を東京の人々にふるまいました。開始1、2時間前から多くの人が並んでくれました。伊勢えびを焼く人だけでなく並ぶ人も

大変だったと思いますが、焼きあがった伊勢えびの皿を受け取った人の顔を見ると、「うん、並んだかいがあったなあ。」という感じが伝わってきたように思いました。

祭典には林農水産大臣、三ツ矢外務副大臣、鈴木三重県知事など多数の来賓の方々も出席して下さいましたが、一市町のイベントに大臣が出席というのも、先日の加茂小体育館での五木ひろしさんのコンサートと同じく、普通はあり得ないことが起こったという印象でありました。

勇気を出して、応募をしてくれた鳥羽の女性の皆様にもお礼を申し上げます。海女着のまま近鉄、新幹線、そして東京メトロにも乗って行くということ、最初は少々恥ずかしかったのかなと思います。しかし、名古屋駅でたくさんの人々やメディアの歓迎を受けて、段々とスターに変身していったのではないのでしょうか。

六本木ヒルズでは、みんな堂々とした態度だったと思います。鳥羽市のPRに一役買っていたらうえ、素晴らしい思い出を仲間の方々と共につくっていただいたことでしょう。



Vol.128

「おもてなし」の由来

東京オリンピック招致の際、「おもてなし」と言う言葉が、話題となりました。この「おもてなし」の語源を調べてみると、「もてなし」に丁寧語の「お」をつけた言葉ですが、ふたつの語源があります。

一つは、具体的に身体に感じ、目に見える「モノ」や、言葉や表情、仕草など、目に見えないことをもってお客様に対応する「モノ」を持って成し遂げる」の語源です。

もう一つは、表裏のない「心」で接するという「表裏なし」からの語源です。

つまり「おもてなし」とは、「おもいやり」をできる限りの「モノ」で表裏のない

心で誠実に伝えるといった意味となります。

この「おもてなし」は日本語独自の言葉ですが、英語に訳してみると「サービス」や「ホスピタリティ」といった言葉で現されます。

「サービス」は、ラテン語の Servetus II 「奴隷」が語源であり、サービス料やチップが発生するなど、提供される側、する側に主従関係が発生し少し違った意味合いとなります。

一方、「ホスピタリティ」は、ラテン語の Hospitis II 「客人等の保護」が語源であり、危険と隣り合わせに巡礼する異邦人を歓待することがその言葉の起源で、家族と接するように、見返りを求めない対応を意味します。

日本語は、独特の世界観や表現の豊かな感性を表す素晴らしい文化です。

しかし、日常使っている言葉の中には、気付かないうちに相手に傷つけたり、侮辱している場合もあります。

今一度、ことばの由来について考えてみてはいかがでしょうか。

